

銅の普及・啓発を推進する日本銅センター（会長・宮川尚久古河機械金属社長）は29日夕、東京都中央区の銀座東武ホテルで14年度の日本銅センター賞の表彰式を行った。同賞は銅需要の促進に寄与した取り組みに贈られるもので、今回で41回目を迎えた。今回はサンライズ工業と大阪大学古城紀雄名誉教授、日本メデイカルGPO

日本銅センター賞

の長隆代表取締役の3者や製品を開発した取り組みが受賞。写真。宮川会長が評価された。から賞状とトロフィーが 阪大の古城名誉教授は

産・学・医療関連の3者に授与

授与された。

サンライズ工業は「特殊仕様対応の銅管を利用した熱交換器の開発・普及」で受賞。高強度銅管や耐食性銅管を積極的に採用したことや、既存の熱交換技術を応用し環境保全など成長分野で技術



「日本銅学会の充実と発展に対する貢献」で受賞。日本伸銅協会が設立した

日本メデイカルGPOの長氏は「抗菌銅Cuプラスの飛躍的普及への貢献」で受賞した。殺菌特性を生かした銅

技術研究会が01年に産学共同運営を明確にした「銅及び銅合金技術研究会」に改組されて以来、一貫して発展のため指導力を発揮。銅学会への組織改定や銅産業の発展に尽力したことが認められた。

の普及活動に賛同し自らの税理士事務所にも製品を導入することもに、医療機器メーカー各社に抗菌銅製品の開発を促した。また医療施設への銅製品の設置・普及にも大きく貢献している。



14年度の銅センター賞

①

「長隆氏（日本メデイカルGPO代表取締役）」

「全ては患者のため。効果で極めて高い殺菌患者を減らすことが広性があり黄色ブドウ球菌やO-157などをと話すのは日本メデイカルGPO代表取締役の長隆氏。写真。銅関以上死滅させるとのデ連企業などへの情報提供やコンサルティンクから殺菌力の表示を認施設などでの感染症を排除する取り組みを推進。銅製品の導入を促している。」

銅には表面のイオン

銅センターが取り組

医療機関の銅普及に貢献 感染症予防へ銅製品導入促進



んだ医療施設向けプロジェクトで病院がドアハンドルを大量導入した事例を知ったことがきっかけで、銅の普及に取り組んできた。主に催する税理士法人の顧客には医療機関が多い。自身の事務所ドアやシンクなどで銅を用いるとともに、顧客

にも感染症予防の有効な手立てとして積極的導入を勧めている。また医療機器メーカーに対しても提案を強に働きかけている。殺菌特性を生かした銅素材の飛躍的な普及に力を尽くしたことが認められ、今年度の銅センター賞を受賞した。

とともに、さらなる銅素材の普及に向けて奔走。「今は医療や福祉施設で導入するためのエンジンかけたところ」と今後を見据える。

これからは「東京五輪を契機に地下鉄の吊り手など多くの公共機関で銅を使う取り組みを進めたい」としており、実現に向け多方面に働きかけている。殺菌特性を生かした銅素材の飛躍的な普及に力を尽くしたことが認められ、今年度の銅センター賞を受賞した。

